平成 28 年 7 月 20 日

平成２８年度　第1回校内服務倫理委員会開催によせて

磐崎中学校 PTA 会長　佐藤博行

仲夏のみぎり、平素より子供たちのために温かいご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。

お陰様で PTA 会長並びに評議員の職も２年目を迎えました。この間、子供たちへの学校での教育、指導においては、基本的には、校長先生はじめ先生方に全幅の信頼を置いて、お任せしているわけですが、今回、この様な機会を設けて頂きましたので、自分の置かれている立場を踏まえ、『規律違反の予防』などに少しでも役立てるよう、考えを述べさせて頂きます。

はじめに、服務倫理に関する問題や不祥事は、直接子供たちの身体に危害や被害が生じるものもあるかと思いますが、そうでなくても、子供たちの心に大きな被害が生じる場合もあり、内容に依っては、心に傷が深く、長く刻み込まれることもあるかと思います。

今更言うまでもありませんが、学校教育、特に義務教育は、生徒と先生の信頼関係はとても大事で、信頼関係が損なわれてしまっては、子供たちの健やかな成長も学力の向上も成し難く、結果として子供たちの夢の実現を阻むことにも成りかねないと思います。

先生方は、普段、子供たちに学校の規則、社会生活の基本的なルールを教える立場にいるわけですので、先ずは自らがしっかりと規律を守るとともに、併せて倫理観や人間性を高める努力をして下さいますようお願いいたします。

次に、私は建設関連の職に就いており、工事など現場作業に直接従事しているわけではないのですが、偶然にも昨日、安全衛生に関する講習会に参加して来ましたので、その内容をもとに少し話させて頂きます。

教育環境・現場における服務倫理教育でも同じ様なフレーズが出てくると思いますが、リスクマネジメント、リスクアセスメント、KY、ヒヤリハット、PDCA などの言葉を用いた説明がありました。意味は、既にご存知かと思いますので申しません。

建設環境・現場における労働災害の多くは、大きな損害や、直接人体の怪我、死亡につながることとなるので、リスクマネジメントに真剣に取り組まなければなりません。

一方、教育環境における問題や不祥事は、一般的には労働災害に比べれば、損害の規模は小さく、生死に関わる案件は少ないと思われます。しかし、教育現場において生じた怪我。成長期の子供達の心の傷は、身体の傷よりも治りにくく、後遺症が残ることもあるかと思います。建設現場で取り扱うものの多くは機械や材料ですが、教育現場では、血の通った、個々に違った感情を持った人間です。その点を十分意識して頂きたいと思います。

また、規定は素晴らしいものをいくら作っても、取り組み如何によっては、抑制・抑止効果も薄く、思うような成果があがらない場合があります。きちんと定期的に継続して行うこと、なあなあに成らず、マンネンリ化しないよう心がけることが重要と考えます。

そのためには上司や同僚であっても、お互いに遠慮なく注意や意見を言い合える環境を作ることが大事だと思います。

最期に、問題が起きぬよう、起こさぬよう日々注意を払うことも大切ですが、それにも増して、先生としての役割、使命をしっかりと自覚して、常に『子供たちのために何が出来るのか、何をしなければならないのか』を考えていただき、そこに自らの職業的意義と喜びを見いだすよう励んでいただければ、自然と問題は起こりにくくなると考えます。

今後も、先生方にとって風通し良く、より良い職場の環境作りを目指し、校長先生を先頭に、相互に励んで下さいますようお願い致します。併せて、子供達の可能性が大きく広がるよう、そして多くの夢が実現するようご尽力の程をお願い致します。

謹　言

（参考資料）

リスクマネジメント

危機管理手法。将来起こりうるリスクを想定し、リスクが起こった場合の損害を最小限に食い止めるための対応をいう。主にリスクアセスメントとリスク対応とから成る。

リスクアセスメント

職場の潜在的な危険性又は有害性を、事前に予測、評価し、これを除去、低.減するための手法。

ＫＹ(危険予知)，ＫＹＴ(危険予知トレーニング)

危険に関する情報をお互いに寄せ集め、危険のポイントと行動目標を定め、話し合って共有化し合い（要所要所で指差し呼称）を行うことにより、安全を確認して行動するための手法。

.

ＰＤＣＡ

Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

ヒヤリハット

労働災害における経験則の一つであるハインリッヒの法則によるもの。一件の重大なトラブル・災害の裏には、29件の軽微なミス、そして300件のヒヤリ・ハットがあるとされる。